

# 令和7年度 八王子市立鑓水小学校学校経営計画

校長 高田 浩

## 1 目指す学校像・子供像・教師像

### 【学校像】

ウェルビーイングの考えを踏まえ、学校教育の使命である、子供たちに学力と社会性を身に付けさせ、将来、社会の一員としてよりよく生きていく上での基礎・基本を学ばせる。

○一人一人の学力と豊かな心を育む ○健やかな心と体を育む ○地域とともにある学校

### 【子供像】

#### 《学校教育目標》

○本気 ○勇氣 ○元気

本校では、教育活動全体を通して「知」「徳」「体」をバランスよく育てていく。

○本気で考える子

○勇氣をもって行動する子

○元気で心豊かな子

### 【教師像】

○組織への貢献

⇒組織の一員としての役割と責任を自覚し、協働して成果を上げる意識をもつ。

○教師力の向上

⇒授業力や生活指導力の向上のために、研鑽に努めるとともに、互いに学び合う意識をもつ。

○人を大切にする意識

⇒組織力の向上や家庭や地域、関連機関との信頼は、全て子供の成長に結びつくことを意識する。

## 2 学校経営計画の実現に向けた視点

☆教育活動の改善・充実 ☆家庭・地域との連携 ☆国や都、市の施策への迅速な対応

☆学校運営協議会で内部、外部の学校評価を点検し学校経営に素早く反映

## 3 中長期的目標と方策（◎は重点目標）

1年を通して下記の①から④を柱として義務教育9年間を見通した小中一貫教育を推進する

①児童・生徒が合同で行う活動の充実…「プレ中学生プロジェクト」「はちおうじっ子サミット」等

②鑓水中学区の子供に共通した課題を明確にした3校合同研究…児童・生徒の思いや願いを取り入れた9年間で育てたい子供像『好きになれる～自分・仲間・学校・地域・挑戦～』（令和6年度作成）の実現のための取組と家庭や地域への啓発活動の推進

③児童・生徒に関する情報の共有…人間関係や特別な支援、いじめ、不登校等について共有、協議

④家庭・地域とともにある学校づくり…学校運営協議会を中心とした子供を支え、育てる体制の充実

### （1）学力向上

#### ◎授業改善

方策 ⇒新しい時代に求められる資質・能力を意識し、授業改善の視点「主体的・対話的で深い学び」を実現させるため、自力解決の時間や学び合う時間の設定等、子供主体の授業を実施する。

⇒教師及び子供たちのタブレット端末等のICT機器活用スキルを向上させるとともに、授業や家庭でのICT機器の効果的な活用をすすめ、GIGAスクール構想の実現を図る。

#### ◎基礎基本の徹底

方策 ⇒様々な補習の機会を充実させるとともに、3年生以上対象に月1回「すご6（すごい6時間目）タイム」を設け、学習に悩みを抱えている子供の相談にのる機会を設定する。

#### ○外部人材の積極的な活用

方策 ⇒学校コーディネーターと連携し、全学年で、本物に触れる機会を設け、教育の質の向上を図る。

## ○体育健康教育

方策 ⇒令和５・６年度東京都体育健康教育推進校としての取組をもとに、持続し続ける活動を精選し、次の時代につなげる体制や仕組みを構築する。

## （２）豊かな心

### ◎あいさつの励行

方策 ⇒子供たちが活躍する未来を見据え、コミュニケーション能力の向上の一環としてあいさつを大切にした指導を行う。

### ◎いじめ対応の強化

方策 ⇒適時、臨時学校いじめ対策委員会を設け迅速かつ組織的な対応を行うとともに、週１回、学校いじめ対策委員会を実施し、いじめの予防及び早期発見、早期解決を図っていく。また、年３回の研修を計画的（１学期管理職、２学期外部講師、３学期若手教員がそれぞれ講師を担当）に実施し、教員一人一人のいじめへの理解と対応能力の向上を図っていく。

⇒代表委員会を中心とした子供の自治的な活動をとおして、いじめを許さない校風を育てる。

### ◎学級経営

方策 ⇒学級会等の学級活動を充実させることで、互いの考えや意見を尊重し、望ましい人間関係を形成するとともに、合意形成を意識した、集団の一員として諸問題を解決しようとする自主的、自治的な態度を育てる。

## （３）特別支援教育

○一人一人の子供に適切な合理的配慮を推進していく。

方策 ⇒特別支援教育コーディネーターを複数指名し、コーディネーターを中心とした校内委員会を充実させるとともに、外部講師による研修を毎年実施し、理解を深める。

## （４）不登校対応

◎きめ細やかな不登校の子供への対応

方策 ⇒子供が自ら社会とかかわろうとするきっかけとなりうる機会や場の充実を図る。令和７年度からは、スマイルームを放課後も開放したり、不登校の子供が大人とかかわる機会を創設したりする。

## （５）学校運営協議会と協働した学校経営

◎学校運営協議会及び３校合同学校運営協議会と連携し、地域貢献を意識し、地域の拠点としての学校の役割を果たす。

方策 ⇒学校だけで決定するのではなく、常に学校運営協議会と協働することで、保護者や地域の意見を学校経営に活かしていく。

⇒学校運営協議会が中心となり、子供たちが地域行事に参加する機会を設け、子供たちの地域愛や地域を支える当事者意識を育てる。

## （６）共創の機会の充実

○子供自身が学校運営について考えたり意見表明をしたりする機会を設ける。

○教員と保護者や学校運営協議会、やりみず会と交流する機会を設ける。

○校長が、保護者と意見交換をする機会を年３回設ける。

◎外部人材とのかかわりをとおして、子供が地域や社会の幸せを考える機会とする。

## （７）学校組織の強化と教職員のウェルビーイング

◎組織の一員としての役割と責任を自覚し、成果を上げる意識をもって職務を遂行する。

方策 ⇒自分の担当校務の目標と具体的な方策を明確にして職務を遂行する。

○交換授業や教科担任制

方策 ⇒３年生以上の学年で、状況に応じて、交換授業や教科担任制等を実施し、複数の教員で学年全員の子供を育てる体制を整えるとともに、授業の質の向上を図る。